

平成 28 年 8 月の熱中症による救急搬送状況

熱中症による救急搬送人員数について、平成 28 年 8 月の確定値を取りまとめましたので、その概要を公表します。

概 要

- 平成 28 年 8 月の全国における熱中症による救急搬送人員数は 2 万 1,383 人でした。これは、昨年 8 月の救急搬送人員数 2 万 3,925 人と比べると 2,542 人減となっています。
- 全国の熱中症による救急搬送状況の年齢区分別、傷病程度別の内訳等については次の通りです。
 - 救急搬送人員数の年齢区分では、高齢者が最も多く、次いで成人、少年、乳幼児の順となっています。
 - 搬送された医療機関での初診時における傷病程度をみると、軽症が最も多く、次いで中等症、重症の順となっています。
 - 昨年度と比較して九州地方で、救急搬送人員数が増加しており、都道府県別人口 10 万人当たりの救急搬送人員数では、熊本県が最も多く、次いで鹿児島県、長崎県の順となっています。
- 気象庁の「向こう 1 か月の天候の見通し」（平成 28 年 9 月 8 日発表）によると、9 月 10 日から 10 月 9 日の天候に関しては、北日本、沖縄・奄美では、暖かい空気に覆われやすく、向こう 1 か月の気温は高くなると見込まれています。引き続き熱中症を予防するために「こまめに水分補給をする」「暑さを避ける」「暑さに負けない体力をつける」など、十分な熱中症の予防対策が必要です。

熱中症は正しい知識を身につけ、適切に予防することで、未然に防ぐことが可能です。消防庁では今年度、新たな熱中症予防啓発のコンテンツとして、「予防啓発ビデオ」「予防啓発イラスト」「予防広報メッセージ」を作成しました。全国の消防機関をはじめ、熱中症予防を啓発する関係機関にも御活用いただけるよう、以下の消防庁 HP にコンテンツを掲載していますので、是非御活用ください。

消防庁 HP 『熱中症情報』

http://www.fdma.go.jp/neuter/topics/fieldList9_2.html

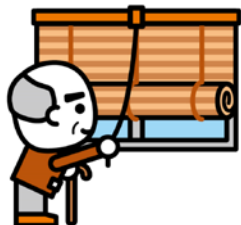
【資料】平成 28 年 8 月の熱中症による救急搬送状況

のどがかわいてなくても



水分補給を!

直射日光を避けよう 周囲の人にも気配りを



(連絡先)

消防庁救急企画室

担当：森川、勝森、足立

電話：03-5253-7529

FAX：03-5253-7539

平成28年8月の熱中症による救急搬送状況の概要

平成28年8月の熱中症による救急搬送状況について調査を行ったところ、その概要は以下のとおりでした。

1 総数

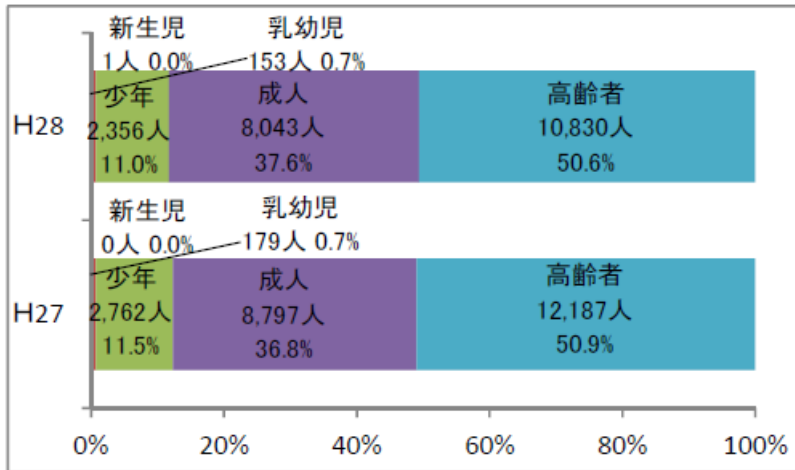
平成28年8月の全国における熱中症による救急搬送人員数は2万1,383人でした。これは、昨年8月の救急搬送人員数2万3,925人と比べると2,542人減となっています。（資料1、2、3、5、6）

2 内訳

(1) 年齢区分ごとの救急搬送人員数

高齢者（満65歳以上）が1万830人（50.6%）、次いで成人（満18歳以上満65歳未満）8,043人（37.6%）、少年（満7歳以上満18歳未満）2,356人（11.0%）、乳幼児（生後28日以上満7歳未満）153人（0.7%）の順となっています。（資料1、5）

熱中症救急搬送人員数 年齢区分別（構成比）



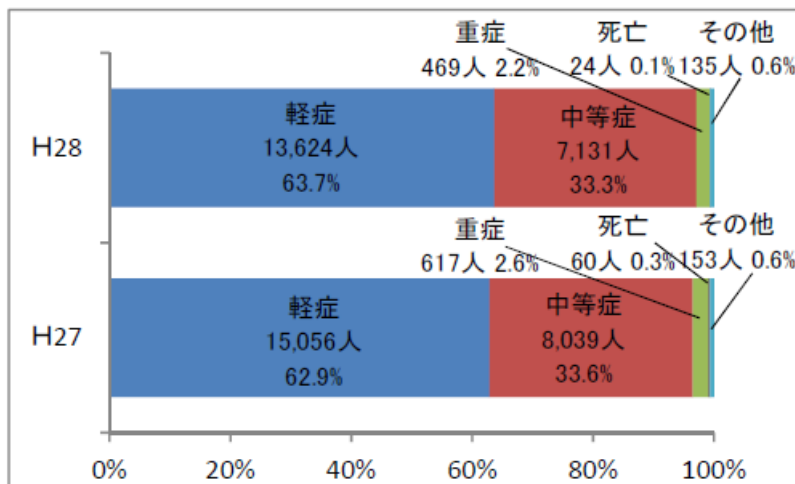
凡例

新生児：生後28日未満の者
 乳幼児：生後28日以上満7歳未満の者
 少年：満7歳以上満18歳未満の者
 成人：満18歳以上満65歳未満の者
 高齢者：満65歳以上の者

(2) 医療機関での初診時における傷病程度ごとの救急搬送人員数

軽症が最も多く1万3,624人（63.7%）、次いで中等症7,131人（33.3%）、重症469人（2.2%）の順となっています。（資料1、5）

熱中症救急搬送人員数 初診時傷病程度別（構成比）



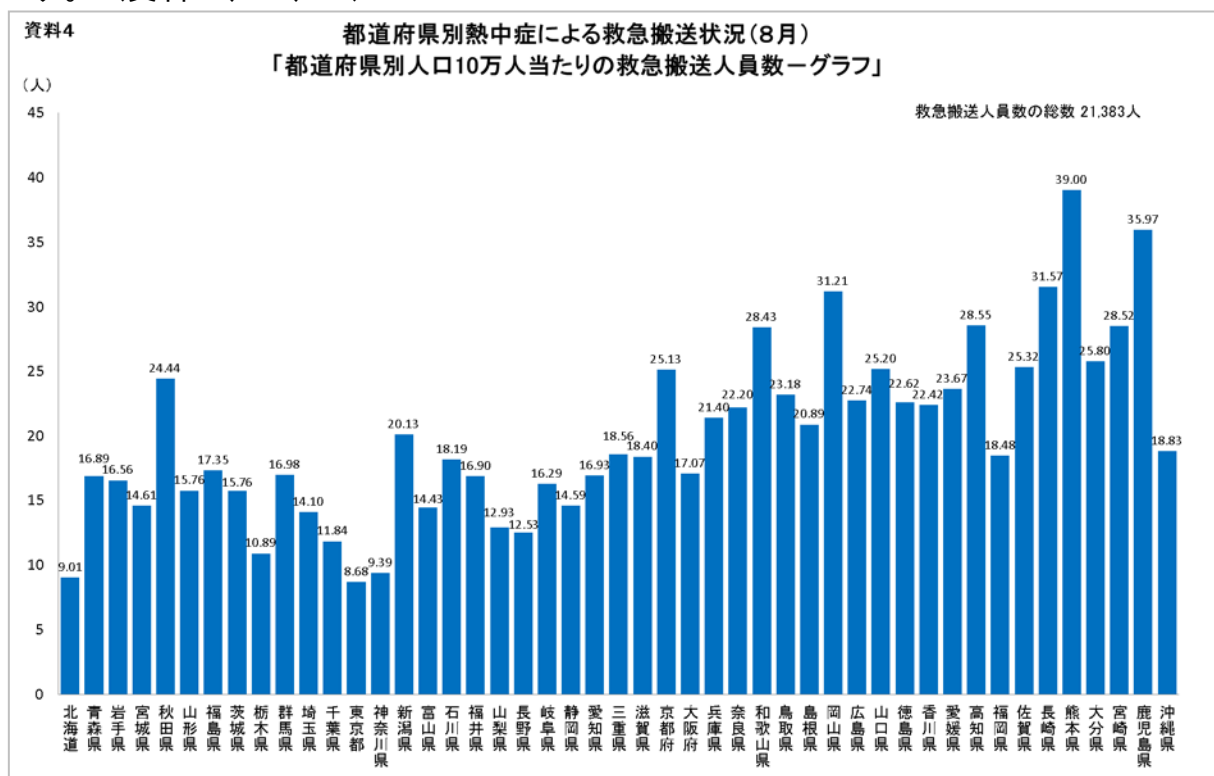
凡例

軽症：入院加療を必要としないもの
 中等症：重症または軽症以外のもの
 重症：3週間以上の入院加療を必要とするもの
 死亡：初診時において死亡が確認されたもの
 その他：医師の診断がないもの
 傷病程度が判明しないもの
 その他の場所に搬送したもの

※なお、傷病程度は入院加療の必要程度を基準に区分しているため、入院の必要がなかった軽症者の中には、早期に病院での治療が必要だった者や通院による治療が必要だった者も含まれている。

(3) 都道府県別人口 10 万人当たりの救急搬送人員数

昨年度と比較して九州地方で、救急搬送人員数が増加しており、都道府県別人口 10 万人当たりの救急搬送人員数では、熊本県が最も多く 39.00 人で、次いで鹿児島県 35.97 人、長崎県 31.57 人、岡山県 31.21 人、高知県 28.55 人の順となっています。(資料 2、3、4)



【参 考】

○ 熱中症の予防対策について

熱中症を予防するには、こまめな水分補給、エアコン・扇風機を用いた室温調整及び適度な休憩をとること等が大切です。また、高齢者は暑さを自覚しにくい、喉の渇きを感じにくく、小さな子供は汗腺が未熟なため、体温調整がしにくいという特徴があります。周囲の方の気遣いが熱中症発生の予防につながります。

熱中症は正しい知識を身につけ、適切に予防することで、未然に防ぐことが可能です。消防庁では今年度、新たな熱中症予防啓発のコンテンツとして、「予防啓発ビデオ」「予防啓発イラスト」「予防広報メッセージ」を作成しました。全国の消防機関をはじめ、熱中症予防を啓発する関係機関にも御活用いただけるよう、以下の消防庁 HP にコンテンツを掲載していますので、是非御活用ください。

消防庁 HP 『熱中症情報』

http://www.fdma.go.jp/neuter/topics/fieldList9_2.html

○ 気象庁報道発表資料「8月の天候」より抜粋

8月は太平洋高気圧に覆われてほぼ全国的に月間日照時間が多く、強い日射を受けて全国的に月平均気温は高かった。特に、黄海付近では高気圧の勢力が強く、上空も気圧の尾根となり背の高い高気圧に覆われたため、月平均気温は沖縄・奄美でかなり高かった。西日本でも下旬の中頃までは背の高い高気圧に覆われやすく気温はかなり高く経過し、下旬の終わりは寒気が流れ込みかなりの低温となった日もあったものの月平均気温は高かった。また、北日本日本海側と西日本では、月間日照時間はかなり多く、西日本太平洋側と沖縄・奄美では月降水量が少なかった。

○ 暑さ指数(WBGT)と救急搬送人員数とのデータ比較

暑さ指数と救急搬送人員数との関係について調査をするため、東京都、愛知県、大阪府で両者のデータを比較することにしました。(参考資料)

平成 28 年 8 月の熱中症による救急搬送状況

- 資料 1 都道府県別熱中症による救急搬送状況（8月）
「年齢区分別、初診時における傷病程度別救急搬送人員数一表」
- 資料 2 都道府県別熱中症による救急搬送状況（8月）
「救急搬送人員数昨年比一表」
- 資料 3 都道府県別熱中症による救急搬送状況（8月）
「救急搬送人員数昨年比一グラフ」
- 資料 4 都道府県別熱中症による救急搬送状況（8月）
「都道府県別人口 10 万人当たりの救急搬送人員数一グラフ」
- 資料 5 全国の熱中症による救急搬送状況（8月）
「日別の年齢区分別、初診時における傷病程度別救急搬送人員数一表」
- 資料 6 平成 22 年～28 年の熱中症による救急搬送人員数及び死亡者数一覽一表
- 資料 7 平成 28 年の熱中症による救急搬送状況（週別推移）一グラフ
- 参考資料 主な都道府県の日別の救急搬送人員数と暑さ指数（WBGT）データとの比較一グラフ（5～8月）

資料1

都道府県別熱中症による救急搬送状況(8月)
「年齢区分別、初診時における傷病程度別救急搬送人員数一表」

都道府県		平成28年8月1日～8月31日											
		年齢区分(人)						初診時における傷病程度(人)					
		新生児	乳幼児	少年	成人	高齢者	合計	死亡	重症	中等症	軽症	その他	合計
1	北海道	0	2	44	132	307	485	2	10	150	312	11	485
2	青森県	0	3	25	74	119	221	0	6	75	139	1	221
3	岩手県	0	3	28	71	110	212	2	8	80	122	0	212
4	宮城県	0	3	47	125	166	341	0	8	163	170	0	341
5	秋田県	0	3	39	77	131	250	3	10	68	158	11	250
6	山形県	0	0	19	69	89	177	1	8	59	109	0	177
7	福島県	0	2	37	119	174	332	0	1	98	233	0	332
8	茨城県	0	3	48	184	225	460	0	12	166	279	3	460
9	栃木県	0	1	10	96	108	215	0	9	82	124	0	215
10	群馬県	0	3	58	112	162	335	0	8	129	198	0	335
11	埼玉県	0	8	104	382	530	1,024	2	20	346	656	0	1,024
12	千葉県	1	5	95	281	355	737	0	9	264	464	0	737
13	東京都	0	6	104	465	598	1,173	0	25	433	715	0	1,173
14	神奈川県	0	14	100	383	360	857	1	26	345	485	0	857
15	新潟県	0	3	59	180	222	464	2	11	123	326	2	464
16	富山県	0	1	19	42	92	154	0	8	57	89	0	154
17	石川県	0	2	32	74	102	210	0	4	53	153	0	210
18	福井県	0	2	16	60	55	133	0	5	47	81	0	133
19	山梨県	0	1	25	38	44	108	0	2	45	61	0	108
20	長野県	0	2	34	90	137	263	0	8	100	155	0	263
21	岐阜県	0	5	32	105	189	331	0	11	152	168	0	331
22	静岡県	0	8	51	227	254	540	0	13	142	385	0	540
23	愛知県	0	9	114	533	611	1,267	0	33	294	938	2	1,267
24	三重県	0	2	29	142	164	337	0	1	49	263	24	337
25	滋賀県	0	5	37	104	114	260	0	5	44	211	0	260
26	京都府	0	3	58	238	357	656	0	7	150	499	0	656
27	大阪府	0	3	177	600	729	1,509	2	16	371	1120	0	1,509
28	兵庫県	0	6	130	416	633	1,185	2	25	344	814	0	1,185
29	奈良県	0	2	49	111	141	303	0	4	85	214	0	303
30	和歌山県	0	5	23	104	142	274	0	6	49	218	1	274
31	鳥取県	0	1	16	57	59	133	0	2	52	77	2	133
32	島根県	0	2	12	49	82	145	0	5	69	64	7	145
33	岡山県	0	7	56	216	321	600	0	16	186	394	4	600
34	広島県	0	1	60	212	374	647	0	16	306	325	0	647
35	山口県	0	2	31	143	178	354	3	4	124	222	1	354
36	徳島県	0	1	23	53	94	171	0	6	61	86	18	171
37	香川県	0	1	18	57	143	219	0	10	100	108	1	219
38	愛媛県	0	4	34	127	163	328	1	8	97	222	0	328
39	高知県	0	0	21	74	113	208	0	6	50	146	6	208
40	福岡県	0	5	105	364	469	943	2	10	446	475	10	943
41	佐賀県	0	2	22	92	95	211	0	5	57	141	8	211
42	長崎県	0	1	41	153	240	435	1	13	194	227	0	435
43	熊本県	0	4	89	271	333	697	0	15	277	405	0	697
44	大分県	0	0	25	86	190	301	0	9	140	152	0	301
45	宮崎県	0	2	41	101	171	315	0	8	100	207	0	315
46	鹿児島県	0	2	78	215	298	593	0	14	257	322	0	593
47	沖縄県	0	3	41	139	87	270	0	3	52	192	23	270
合 計【人】		1	153	2,356	8,043	10,830	21,383	24	469	7,131	13,624	135	21,383
割 合		0.0%	0.7%	11.0%	37.6%	50.6%	100.0%	0.1%	2.2%	33.3%	63.7%	0.6%	100.0%

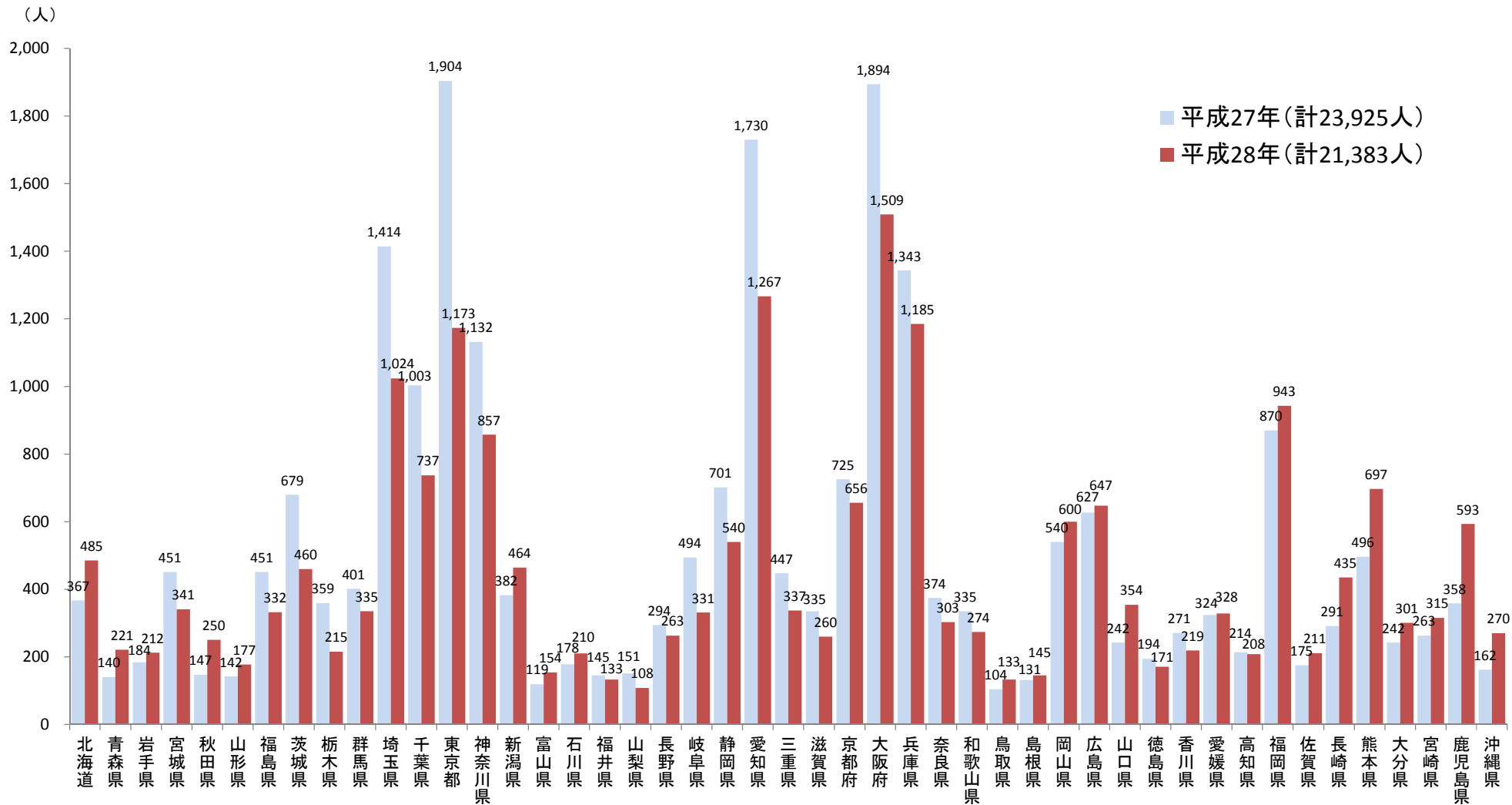
※熱中症の搬送人員に対する割合の算出に当たっては、端数処理(四捨五入)のため、割合の合計は100%にならない場合があります。

都道府県別熱中症による救急搬送状況(8月)
「救急搬送人員数昨年比一表」

都道府県	8月1日～8月31日			昨年比(倍)	
	平成28年熱中症 救急搬送人員数 (人)	人口10万人当たりの 救急搬送人員数(人)	平成27年熱中症 救急搬送人員数 (人)		
1	北海道	485	9.01	367	1.3
2	青森県	221	16.89	140	1.6
3	岩手県	212	16.56	184	1.2
4	宮城県	341	14.61	451	0.8
5	秋田県	250	24.44	147	1.7
6	山形県	177	15.76	142	1.2
7	福島県	332	17.35	451	0.7
8	茨城県	460	15.76	679	0.7
9	栃木県	215	10.89	359	0.6
10	群馬県	335	16.98	401	0.8
11	埼玉県	1,024	14.10	1,414	0.7
12	千葉県	737	11.84	1,003	0.7
13	東京都	1,173	8.68	1,904	0.6
14	神奈川県	857	9.39	1,132	0.8
15	新潟県	464	20.13	382	1.2
16	富山県	154	14.43	119	1.3
17	石川県	210	18.19	178	1.2
18	福井県	133	16.90	145	0.9
19	山梨県	108	12.93	151	0.7
20	長野県	263	12.53	294	0.9
21	岐阜県	331	16.29	494	0.7
22	静岡県	540	14.59	701	0.8
23	愛知県	1,267	16.93	1,730	0.7
24	三重県	337	18.56	447	0.8
25	滋賀県	260	18.40	335	0.8
26	京都府	656	25.13	725	0.9
27	大阪府	1,509	17.07	1,894	0.8
28	兵庫県	1,185	21.40	1,343	0.9
29	奈良県	303	22.20	374	0.8
30	和歌山県	274	28.43	335	0.8
31	鳥取県	133	23.18	104	1.3
32	島根県	145	20.89	131	1.1
33	岡山県	600	31.21	540	1.1
34	広島県	647	22.74	627	1.0
35	山口県	354	25.20	242	1.5
36	徳島県	171	22.62	194	0.9
37	香川県	219	22.42	271	0.8
38	愛媛県	328	23.67	324	1.0
39	高知県	208	28.55	214	1.0
40	福岡県	943	18.48	870	1.1
41	佐賀県	211	25.32	175	1.2
42	長崎県	435	31.57	291	1.5
43	熊本県	697	39.00	496	1.4
44	大分県	301	25.80	242	1.2
45	宮崎県	315	28.52	263	1.2
46	鹿児島県	593	35.97	358	1.7
47	沖縄県	270	18.83	162	1.7
計		21,383		23,925	0.9

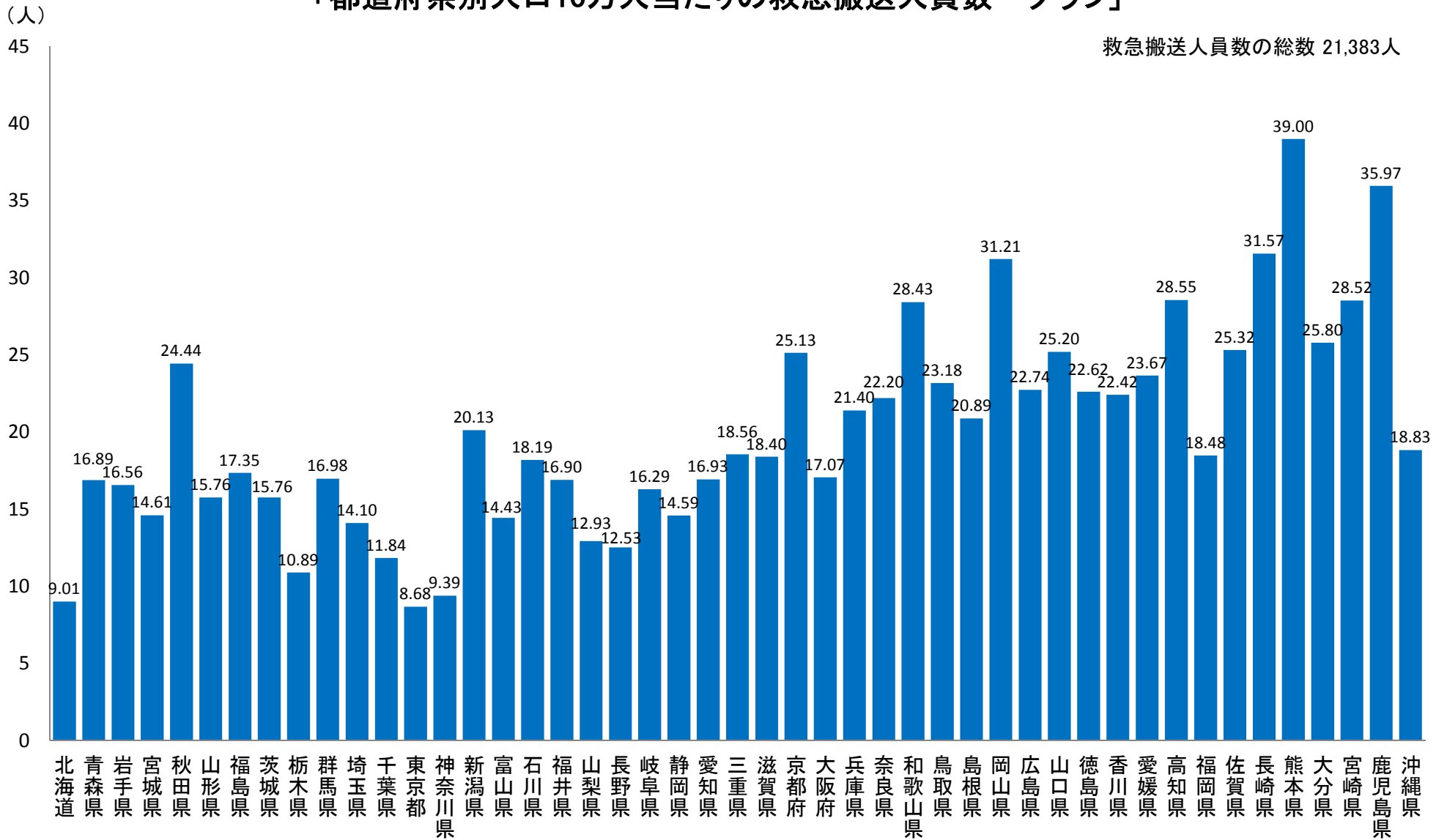
資料3

都道府県別熱中症による救急搬送状況(8月) 「救急搬送人員数昨年比ーグラフ」



資料4

都道府県別熱中症による救急搬送状況(8月) 「都道府県別人口10万人当たりの救急搬送人員数ーグラフ」



資料5

全国の熱中症による救急搬送状況(8月)

「日別の年齢区分別、初診時における傷病程度別救急搬送人員数一表」

日付	曜日	熱中症 救急搬送人員 数(人)	年齢区分(人)						初診時における傷病程度(人)					
			新生児	乳幼児	少年	成人	高齢者	合計	死亡	重症	中等症	軽症	その他	合計
8月1日	月	823	0	10	86	302	425	823	2	16	280	521	4	823
8月2日	火	682	0	5	73	240	364	682	0	15	252	410	5	682
8月3日	水	678	0	4	68	235	371	678	3	17	248	408	2	678
8月4日	木	884	0	5	108	306	465	884	4	22	324	529	5	884
8月5日	金	1,034	0	12	103	381	538	1,034	1	25	346	662	0	1,034
8月6日	土	1,351	0	11	200	516	624	1,351	1	35	410	901	4	1,351
8月7日	日	1,297	0	14	180	459	644	1,297	2	22	343	919	11	1,297
8月8日	月	1,059	0	5	98	349	607	1,059	3	30	407	615	4	1,059
8月9日	火	1,101	0	10	117	368	606	1,101	1	31	400	667	2	1,101
8月10日	水	826	0	4	80	289	453	826	0	25	315	481	5	826
8月11日	木	723	0	5	105	238	375	723	0	13	232	470	8	723
8月12日	金	699	0	7	53	223	416	699	0	15	243	434	7	699
8月13日	土	692	1	8	74	234	375	692	0	16	209	460	7	692
8月14日	日	577	0	5	51	200	321	577	0	11	193	369	4	577
8月15日	月	552	0	2	36	172	342	552	0	14	202	335	1	552
8月16日	火	588	0	0	71	204	313	588	1	15	205	366	1	588
8月17日	水	878	0	3	84	456	335	878	1	21	297	556	3	878
8月18日	木	899	0	6	78	508	307	899	1	17	279	594	8	899
8月19日	金	1,017	0	7	96	485	429	1,017	0	21	322	668	6	1,017
8月20日	土	851	0	3	139	350	359	851	1	7	235	593	15	851
8月21日	日	915	0	7	146	334	428	915	1	14	255	639	6	915
8月22日	月	535	0	8	46	185	296	535	0	14	195	324	2	535
8月23日	火	513	0	2	37	185	289	513	0	12	192	308	1	513
8月24日	水	450	0	2	40	167	241	450	0	9	143	296	2	450
8月25日	木	614	0	2	46	248	318	614	0	15	210	385	4	614
8月26日	金	504	0	4	58	207	235	504	2	7	186	307	2	504
8月27日	土	167	0	1	26	52	88	167	0	1	47	114	5	167
8月28日	日	122	0	1	24	35	62	122	0	2	38	78	4	122
8月29日	月	154	0	0	18	50	86	154	0	3	58	91	2	154
8月30日	火	72	0	0	7	23	42	72	0	0	26	42	4	72
8月31日	水	126	0	0	8	42	76	126	0	4	39	82	1	126
計		21,383	1	153	2,356	8,043	10,830	21,383	24	469	7,131	13,624	135	21,383
熱中症の救急搬送人員数に 対する割合			0.0%	0.7%	11.0%	37.6%	50.6%	100.0%	0.1%	2.2%	33.3%	63.7%	0.6%	100.0%

資料6

平成22年～28年の熱中症による 救急搬送人員数及び死亡者数一覧表

(単位:人)

		平成28年(2016)		平成27年(2015)		平成26年(2014)		平成25年(2013)		平成24年(2012)		平成23年(2011)		平成22年(2010)	
		搬送人員	死亡	搬送人員	死亡	搬送人員	死亡	搬送人員	死亡	搬送人員	死亡	搬送人員	死亡	搬送人員	死亡
確定値	5月	2,788	1	2,904	3	調査データなし									
	6月	3,558	3	3,032	2	4,634	6	4,265	4	1,837	3	6,980	14	2,276	4
	7月	18,671	29	24,567	39	18,407	31	23,699	27	21,082	37	17,963	29	17,750	95
	8月	21,383	24	23,925	60	15,183	15	27,632	57	18,573	35	17,566	27	28,448	62
	9月	△	△	1,424	1	1,824	3	3,133	0	4,209	1	3,960	3	7,645	10
搬送人員数合計		46,400	57	55,852	105	40,048	55	58,729	88	45,701	76	46,469	73	56,119	171

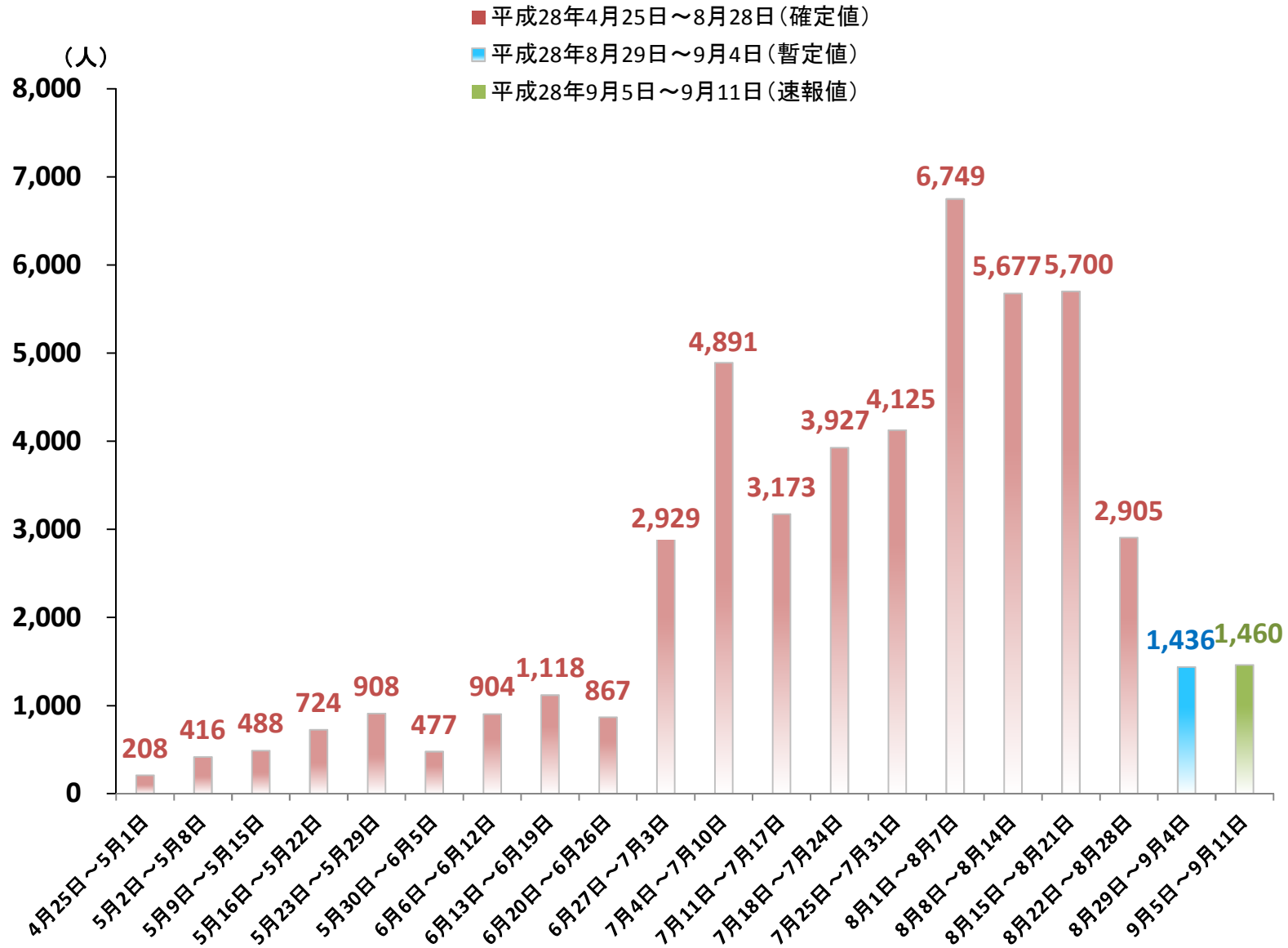
※平成28年は4月25日から調査を開始

(参考) 梅雨明けの時期

	平成28年(2016)	平成27年(2015)	平成26年(2014)	平成25年(2013)	平成24年(2012)	平成23年(2011)	平成22年(2010)	(平成)
沖縄	6月16日ごろ	6月11日ごろ	6月26日ごろ	6月11日ごろ	6月23日ごろ	6月9日ごろ	6月19日ごろ	6月23日ごろ
九州	7月18日ごろ	7月17～29日ごろ	7月16～20日ごろ	7月8日ごろ	7月23日ごろ	7月8日ごろ	7月17～20日ごろ	7月14～19日ごろ
中国・四国	7月18日ごろ	7月20～24日ごろ	7月20日ごろ	7月8日ごろ	7月17日ごろ	7月8日ごろ	7月17日ごろ	7月18～21日ごろ
近畿・東海	7月18～28日ごろ	7月20日ごろ	7月20～21日ごろ	7月7～8日ごろ	7月16～23日ごろ	7月8日ごろ	7月17日ごろ	7月21日ごろ
関東甲信	7月29日ごろ	7月19日ごろ	7月21日ごろ	7月6日ごろ	7月25日ごろ	7月9日ごろ	7月17日ごろ	7月21日ごろ
北陸	7月19日ごろ	7月21日ごろ	7月21日ごろ	8月7日ごろ	7月26日ごろ	7月8日ごろ	7月17日ごろ	7月24日ごろ
東北	7月29日ごろ	7月26～29日ごろ	7月25日ごろ	8月7～10日ごろ	7月26日ごろ	7月9日ごろ	7月18日ごろ	7月25～28日ごろ

資料7

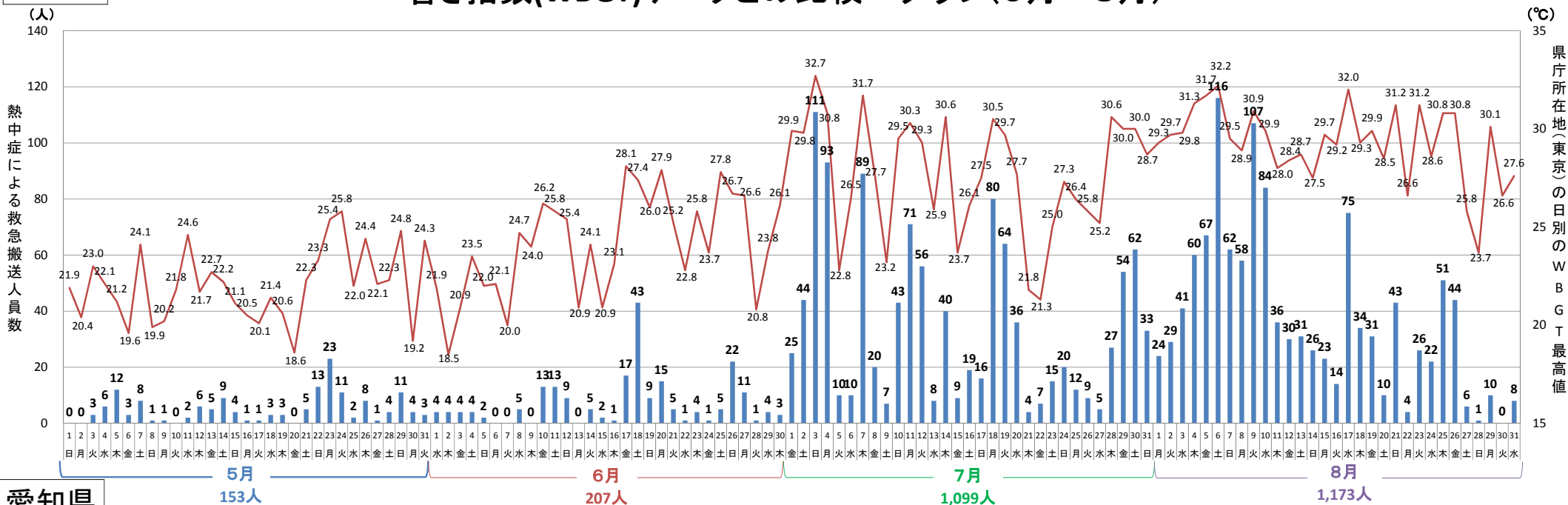
平成28年の熱中症による救急搬送状況(週別推移)ーグラフ



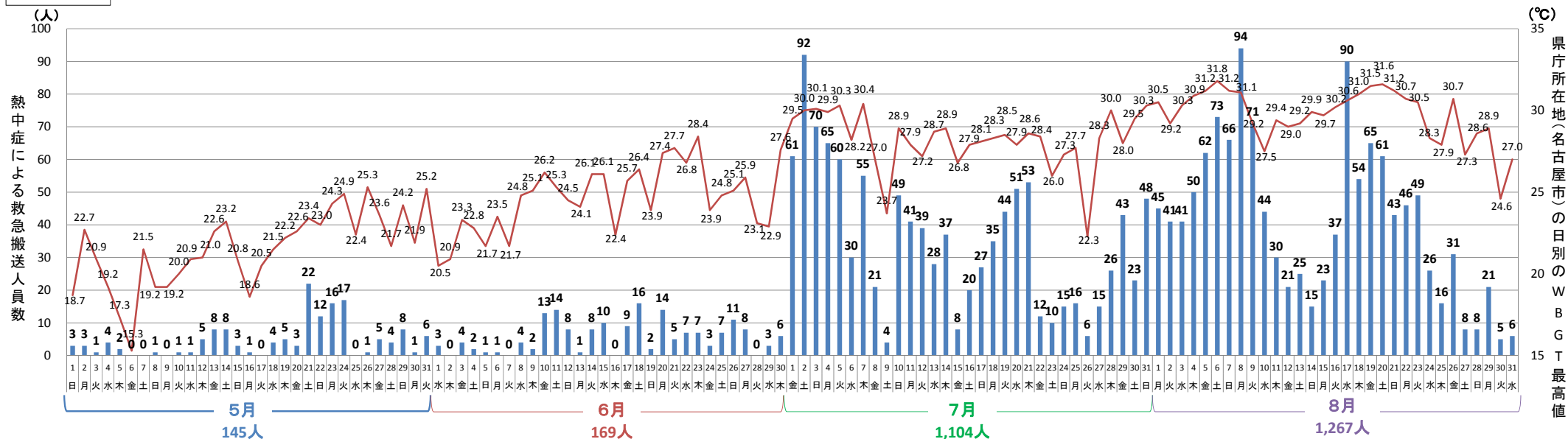
* 暫定値(青)と速報値(緑)の救急搬送人員数は、後日修正されることもありますのでご了承ください。

参考資料

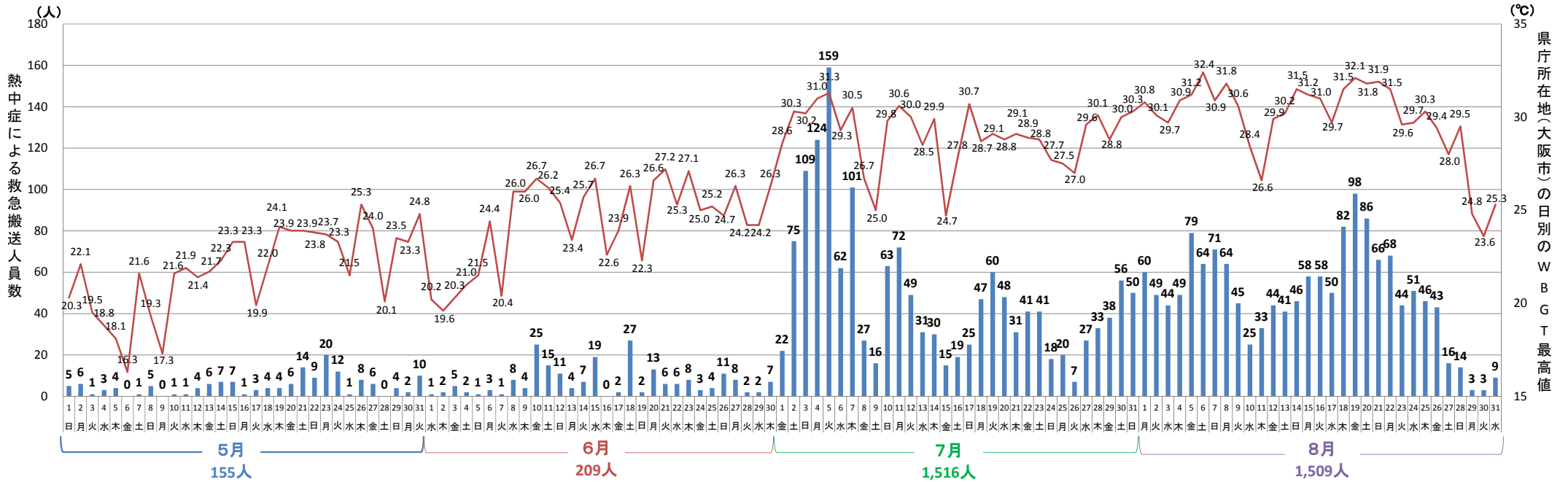
東京都



愛知県



大阪府



【参考】

- (1) 暑さ指数(WBGT(湿球黒球温度): Wet Bulb Globe Temperature)とは、熱中症を予防することを目的として1954年にアメリカで提案された指標です。単位は気温と同じ摂氏度(°C)で示されますが、その値は気温とは異なります。暑さ指数は(WBGT)は人体と外気との熱のやりとり(熱収支)に着目した指標で、人体の熱収支に与える影響の大きい①湿度、②日射・輻射など周囲の熱環境、③気温の3つを取り入れた指標です。
- (2) 暑さ指数(WBGT)の温度基準、注意すべき生活活動の目安、注意事項(右図)環境省HPより抜粋
- (3) 環境省熱中症予防情報サイト <http://www.wbgt.env.go.jp/>

温度基準 (WBGT)	注意すべき生活活動の目安	注意事項
危険 (31℃以上)	すべての生活活動でおこる危険性	高齢者においては安静状態でも発生する危険性が大きい。外出はなるべく避け、涼しい室内に移動する。
厳重警戒 (28~31℃※)		外出時は炎天下を避け、室内では室温の上昇に注意する。
警戒 (25~28℃※)	中等度以上の生活活動でおこる危険性	運動や激しい作業をする際は定期的に十分に休息を取り入れる。
注意 (25℃未満)	強い生活活動でおこる危険性	一般に危険性は少ないが激しい運動や重労働時には発生する危険性がある。

※ (28~31℃) 及び (25~28℃) については、それぞれ28℃以上31℃未満、25℃以上28℃未満を示します。
日本生気象学会「日常生活における熱中症予防指針Ver.3」(2013)より